

# 2017年日本切手発行状況

2017年の切手発行は表1のように58件発行され、50件以上の発行が2015年から継続、発行種類も590種と乱発傾向は相変わらずである。どの様な経過を踏んでこの乱発になってきたかを知りたく、過去50年(1968年)の発行状況を整理した結果が図1である。

種類数は切手ブームの終焉以後、2005年後までは突出した年は見られても緩やかに増加してきたのが2006年以降急激な増加に転じている。内容的には2006年まではふるさと切手発行が主な増加要因できたのが、2006年以降ふるさと切手が徐々に減じるにつれて、それを上回る記念切手増加が見られ、2008年以降シリーズ切手が急激に増加、同時のグリーティング切手が徐々に増している。この間、記念切手が急に減少している(2016年伊勢志摩サミット22種発行)。次に発行枚数の推移は図2の様に種類数推移とは対照的な推移である。切手ブーム以降の濫造傾向は2003年(郵政公社設立)に半減したのが2007年(郵便民営会社発足)あたりから種類数の増加と並行し増加へと変わってきたことがわかる。一言で言うと30年近い濫造の時

を経て、乱発、それに引きずられての徐々に乱造へと変わりつつある時に2017年はあるということ踏まえて、今年発行状況を整理したい。

## 切手の種類別発行状況

切手種類別に整理すると表2のようにグリーティング、シリーズ切手が種類、発行枚数の80%を占め、件数で75%と日本切手の姿がまったく変わってしまったことを再認識させられるグラフが示される(図3)。

表2 2017年発行切手種類別数

切手発行別種	件数	種類	発行枚数(万)
グリーティング切手	21	228	44309
シリーズ切手	22	272	33268
記念切手	6	36	3900
年賀切手	2	6	6400
普通切手	2	3	
毎年発行切手	5	45	5000
総計	58	590	92877

さらに、今年は記念切手の発行が例年にも増して少ない感を受けたので、過去10年の記念切手に限って発行状況を整理すると件数、種類、発行枚数、すべてで減少傾向がみられ、中でも発行枚数の減少が目立つ。そこで、過去50年を遡って記念切手発行枚数を発行件数、種類の平均発行枚数を考慮し整理

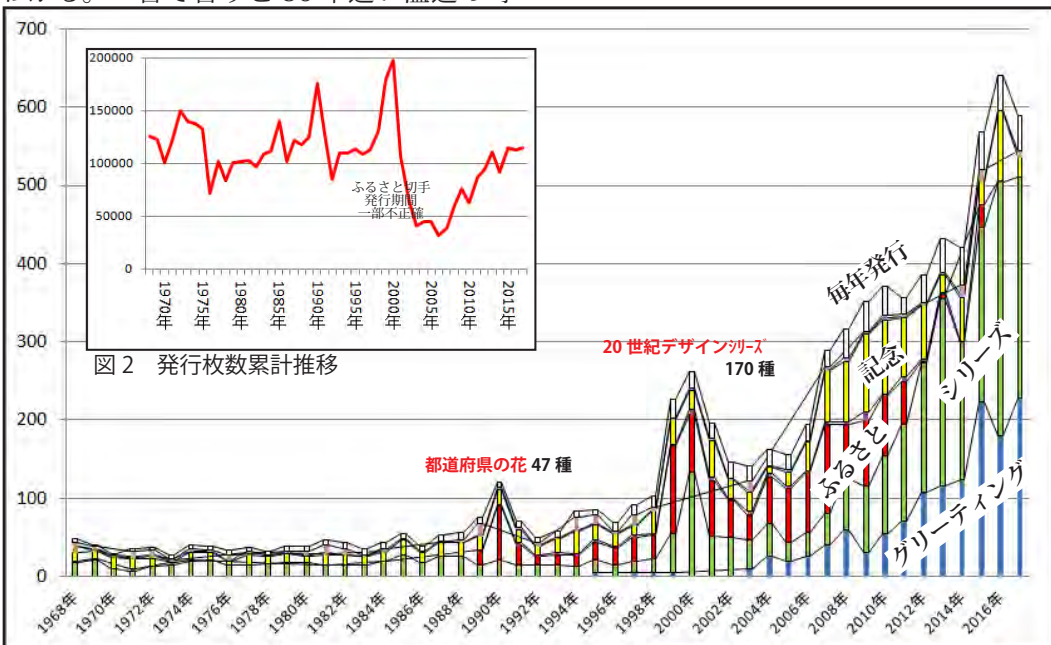


図1 過去50年切手発行種類数の推移

表1 2017年発行切手一覧

NO	目的	通称	種	枚数	切離
1	普通切手	動物・花・国立公園切手	1		目打
2	普通切手	慶弔用切手	2		目打
3	年賀切手	年賀平成29年用(小型シート)	2	0	目打
4	年賀切手	年賀切手平成30年用	4	6400	目打
5	記念切手	第8回アジア冬季競技大会	5	600	目打
6	記念切手	理化学研究所創立100年	5	600	目打
7	記念切手	日米外交関係樹立150年	10	900	目打
8	記念切手	民生委員制度創設100年	1	600	目打
9	記念切手	ラオス/クア国際協会創立100年	5	700	目打
10	記念切手	日・モルディブ外交関係樹立50年	10	500	目打
11	毎年発行	2017切手趣味週間	10	700	目打
12	毎年発行	2017国土緑化(富山県)	10	800	目打
13	毎年発行	2017ふみの日	10	2000	シール
14	毎年発行	第72回国民体育大会(愛媛県)	10	500	目打
15	毎年発行	2017国際文通週間	5	1000	目打
16	グリ-ティング	ディズニーキャラクター	20	6000	シール
17	グリ-ティング	2017春のグリ-ティング	8	3200	シール
18	グリ-ティング	グリ-ティング切手 スヌーピー	20	6000	シール
19	グリ-ティング	グリ-ティング(シンプル82円)	1	3000	シール
20	グリ-ティング	2017夏のグリ-ティング	12	3120	シール
21	グリ-ティング	グリ-ティング日本の絵画	10	1000	シール
22	グリ-ティング	グリ-ティング切手ハッピーグリ-ティング	6	3000	シール
23	グリ-ティング	スーパーマリオ	10	2000	シール
24	グリ-ティング	リラックマ(2017グリ-ティング)	20	2000	シール
25	グリ-ティング	伝統文化の世界	10	1000	シール
26	グリ-ティング	ファッション	10	1500	シール
27	グリ-ティング	秋のグリ-ティング	13	1300	シール
28	グリ-ティング	グリ-ティング切手「ぼすくまと仲間たち」	20	2000	シール
29	グリ-ティング	2017グリ-ティング(ライブ・花)	8	2400	シール
30	グリ-ティング	海外グリ-ティング(差額用)	2	300	目打
31	グリ-ティング	2017ハッピーグリ-ティング	18	3600	シール
32	グリ-ティング	2017冬のグリ-ティング	14	2800	シール
33	シリーズ	日本の建築シリーズ 第2集	2	800	目打
34	シリーズ	和の文様シリーズ 第2集	20	2000	シール
35	シリーズ	おもてなしの花シリーズ第7集	10	2000	シール
36	シリーズ	星の物語シリーズ 第5集	10	3000	シール
37	シリーズ	おもてなしの花シリーズ第8集	10	1600	シール
38	シリーズ	My旅切手シリーズ 第2集	20	1200	シール
39	シリーズ	天然記念物シリーズ 第2集	10	800	目打
40	シリーズ	日本の夜景シリーズ 第3集	10	1000	目打
41	シリーズ	海のいきものシリーズ 第1集	10	3500	シール
42	シリーズ	世界遺産シリーズ<第10集>	10	800	目打
43	シリーズ	和の文様シリーズ 第3集	10	2000	シール
44	シリーズ	浮世絵シリーズ 第6集	10	800	目打
45	シリーズ	伝統色シリーズ 第1集	20	2000	シール
46	シリーズ	日本の夜景シリーズ 第4集	10	1000	目打
47	シリーズ	鉄道シリーズ 第5集	20	1200	目打
48	シリーズ	身近な動物シリーズ 第4集	20	2000	シール
49	シリーズ	和の食文化シリーズ 第3集	10	1500	シール
50	シリーズ	森の贈りものシリーズ 第1集	20	2000	シール
51	シリーズ	おもてなしの花シリーズ第9集	10	2000	目打
52	シリーズ	絵本の世界シリーズ第1集	10	2000	シール
53	販売品シリーズ	日本の建築シリーズ第2集切手帳	8	32	目打
54	販売品グリ-ティング	ハート切手のレターセット	6	36	シール
55	販売品シリーズ	星の物語シリーズ 完結編セット	12	36	シール
56	販売品グリ-ティング	特別切手帳「春夏花鳥図屏風」	6	18	目打
57	販売品グリ-ティング	My旅切手レターセット専用シート	7	14	シール
58	販売品グリ-ティング	レターセットぼすくまと仲間たち	7	21	シール

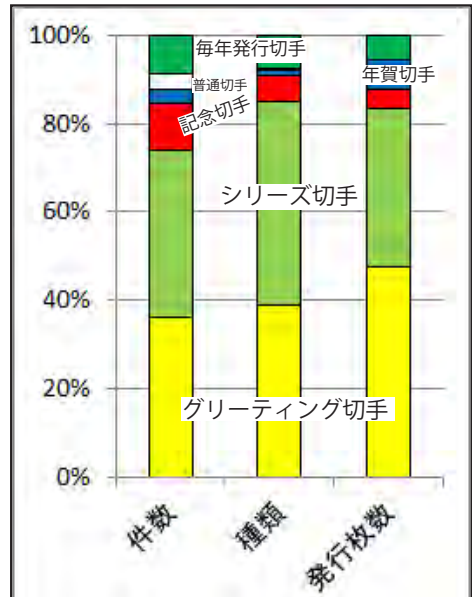


図3 2017年発行切手種類別割合

した。図4の様に、1980年頃と2000年頃に大きく減少し現在の状況になっていることが判る。最近では1件当たりの発行枚数、1種当たりの発行枚数も少なくなっている。

今年発行された民生委員制度を記念する切手、前回は1900万枚、今回は600万である。今後、グリ-ティング、シリーズ切手の発行枚数との差を注意していきたい。

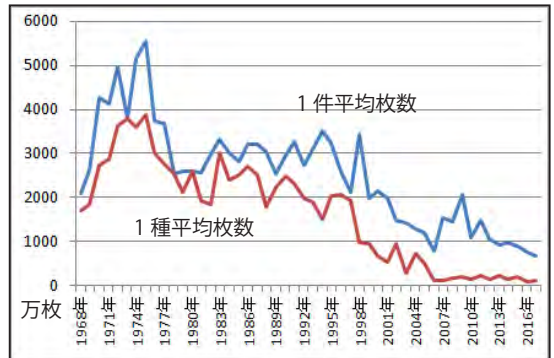


図4 記念切手の平均発行枚数50年の推移

### 販売品

注意されるのが昨年初めて発行された切手以外の品物と組み合わせて発行される販売品なる収集家には困りものの発行が6件と増えたことである。しかもその中にシリーズ切手完結編セット(星の物語シリーズ 完結編セット)という販売品が発行され、販売品がグリ-ティング切手だけでなく、シリーズ切手にも、今



図5 民生委員制度50周年と100周年切手  
1900万枚 600万枚  
右切手の文字を判読可能か、次ページで検討



図7 グラビア8色印刷切手特別切手帳6種の500円切手「春夏花鳥図屏風(左隻)」

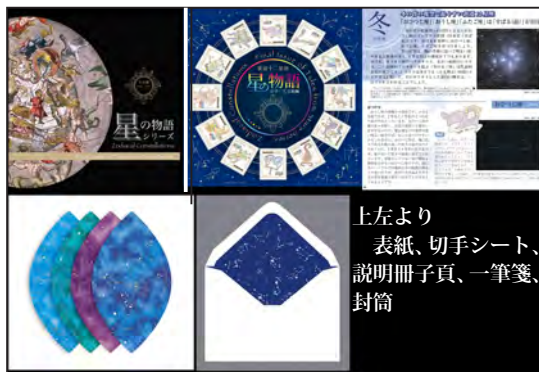


図6 シリーズ切手に出現  
シリーズ切手完結編という販売品  
82円切手12種込みで1500円

後、発行されるのかと思われるものが出現した(図6)。発行された6種の販売品、切手の額面の合計は6342円の切手のために15900円が必要であり、加えて、この販売品、確実な入手を考えると通信販売を利用せざるを得ないので合計約20000円を越える出費を強いられることになる。更に、今年も販売品だけに定型外郵便物料金120円切手が4種発行されている。今後他のグリーティング切手等にまで発行がみられるか注意される。

### 印刷関係

印刷は最近の傾向と変化なく、92%がオフセット印刷、5%がグラビア印刷、例外的に凹版、凸版印刷である。注意されるのが7色オフセット、8色グラビア印刷の切手が発行されたことである(図7、図9)。

印刷機関については昨年と同じく海外3社、国内2社の5社(カルトール社、エンスケデ社、フィラ・ポスト、国立印刷局、凸版印刷社)が印刷しており、その割合も凸版印刷kkが

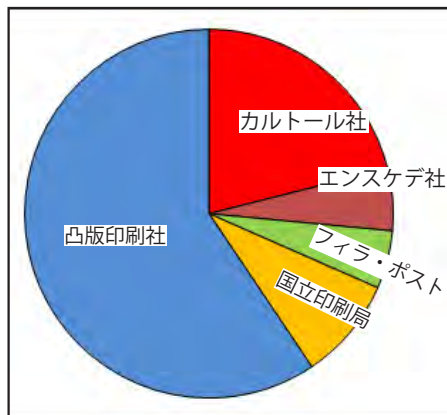


図8 2017年切手印刷機関別割合  
切手種類数より算出

60%を占めている点を含め昨年と変わらず図7のようなグラフとなる。

印刷方式と印刷機関の関係では国立印刷局がオフセットを含め、グラビア、凸版、凹版、すべての方式の印刷をしているが、他の4機関はすべてオフセットだけの印刷であることが注意された。加えて、ほとんどが印刷局のグラビア印刷で発行されてきた国際文通・広重浮世絵切手が10年ぶりにカルトール社のオフセットで印刷されていることが目にとまった。年賀切手の印刷にもいくつかの変化が見られる。年賀小型シートがデザイン孔の開いたシートに7色で印刷され、初めての外国製、しかも10年ぶりに134円で販売され



図9 デザイン孔の開いたシートに7色で印刷された年賀シート

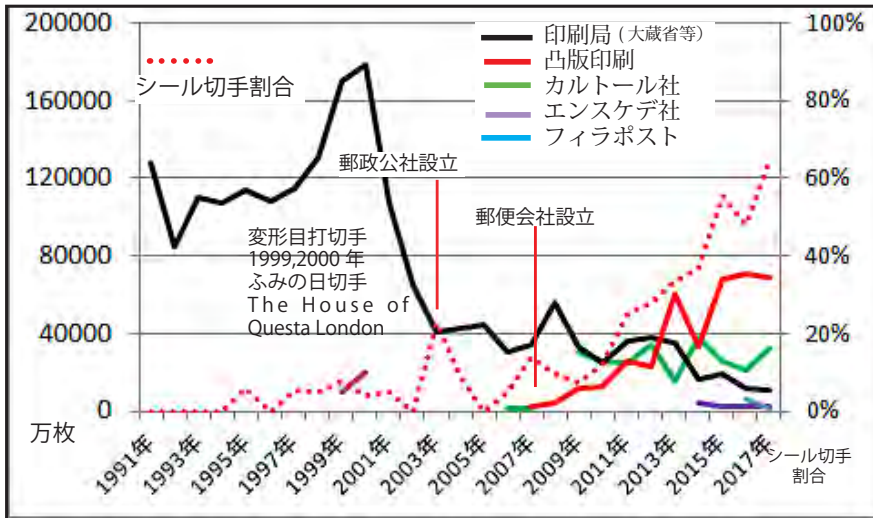


図 10 1990 年以降の切手印刷機関の推移 (印刷枚数)

た (図 9)。また、2018 年用年賀切手の印刷も変わった。寄附金なし切手 2 種が初めて公でなく民間のフィラ・ポストで印刷されている。

過去に遡って、切手印刷の推移を整理すると図 10 の様になり、変形切手、シール切手等、切手の多様性と民営化の要因が窺い知れる。また、シール切手の発行が種類で 67%、発行枚数で 78% になり、今年が我国の切手のシール切手時代に入ったと言える年と考えたい。また、変形切手が販売品の影響か、少し多く全体の 14% になっている。

### デザイン、色彩等

老眼が進む者に見極め難しい切手が散見された。デザイン関係で気になるのグリーティング切手に似かよったものが多く。一目で違いが見つけられない、簡単な「まちがいがし」の問題に使用できそうな感じである。シートから離されたこのような切手を年間 600 種近い切手の中で区別するのは苦痛である。そのような切手の一部を示すと図 11 のような切手が思い当たる。

更に、前ページの今年発行された民生委員制度 100 周年切手を紙面に掲載するのに不安を持った。白のハトがモノクロ印刷に耐えるのか、そして文字が読めるのか、ということである。特に文字サイズはなぜルーペが必要なサイズかということに、いささか疑問

を持った。そこで使用されている文字サイズを PC で推定してみた (図 12)。少なくとも 4p サイズ以下の文字であった。これが発行目的表示の文字のサイズでは記念切手の啓蒙、広報等の目的を果してはいないのでないだろうか。



図 11 一見、異なる切手とは判断しにくい切手の一部

最後に、一番の懸念はこれら切手を収集するための費用である。切手額面合計 44656 円に、販売品の費用負担約 9500 円、それに通販費用を考えると 6 万円弱の負担となり、収集の継続を検討をせざる問題である。今後、日本



図 10 使用文字サイズを検証  
●の列が実際の切手の文字  
上記切手は原寸 1.5 倍  
前ページが原寸

切手がどのように発行されているのか、期待より不安を感じる 2017 年の発行状況であった。なお、2009 年より続けてきた年毎の発行状況記事は今年で終わらせていただきます。

(編集子)